

執筆要綱

2004 年 1 月 12 日制定

2005 年 12 月 3 日改訂

2012 年 4 月 1 日改訂

2016 年 8 月 30 日改訂

1. 論文は和文または英文とします。英文の場合は、英語を母語とする外国人に校閲を受け、所定の校閲証明書を添付してください。

2. 原稿はすべて横書きとし、ワードプロセッサを使用する場合は A4 用紙を使用し、表紙に本文の文字数および図表の個数を明記してください(原則として 1 行 40 字, 1 頁 30 行)。

図、表、写真はそのまま掲載できるものを送ってください。図は、墨または黒インクで清書したものとします。当方でトレースをした場合は実費を徴収します。

図、表、写真の挿入箇所を、本文原稿用紙の欄外に、図○、表○、写真○と朱書き記載してください。また、図、表、写真の説明は別の原稿用紙に一括して記載してください。

3. 原稿は以下の体裁で作成してください。

原著、総説、症例報告、短報、調査報告

第 1 頁:「論文題名」「論文種別」「著者(共著者)の姓名」「所属(科名まで)とその所在地」「筆頭著者の連絡先(住所、電話、FAX、e-mail アドレス)」を明記する。著者(共著者)名には振り仮名をつける。

第 2 頁:「論文題名」と「論文種別」を明記する。

第 3 頁:論文の和文要旨を 400 字以内にまとめる。また要旨の次にキーワードを名詞形で 5 個以内で記載する。

第 4 頁:「英文の題名」「著者(共著者)のフルネーム」「所属とその所在地」「200 語程度の英文要旨」「5 語以内の英語のキーワード」「筆頭著者の連絡先(住所、電話、FAX、e-mail アドレス)」を英語で記載する。

第 5 頁:「英文の題名」「200 語程度の英文要旨」「5 語以内の英語のキーワード」を記載する。

第 6 頁:本文は原稿の第 6 頁目から書き始める。

レポート「現場最前線」

第 1 頁:「論文題名」「論文種別」「著者(共著者)の姓名」「所属(科名まで)とその所在地」「筆頭著者の連絡先(住所、電話、FAX、e-mail アドレス)」を明記する。著者(共著者)名には振り仮名をつける。

第 2 頁:「論文題名」と「論文種別」を明記する。

第 3 頁:本文は原稿の第 3 頁目から書き始める。本文は、原則として、Ⅰ. はじめに、Ⅱ. 方法、Ⅲ. 結果・考察、にまとめて記載する。

利益相反、謝辞、文献、注の記載

本文原稿の最後に上記の順序で記載する。

4. 外国語名(人名、薬品名など)は原語のまま用い、ワープロを使用するか、活字体で明記してください。ただし、日本語化しているものはカタカナ書きしてください。学術語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて()内に原語を入れてください。数字は算用数字を用い、度量衡単位は、m, cm, mm, cm², ml, l, dl, kg, g, mg, などを使用してください。

5. 論文の文献は、本文に引用されたもののみとします。文献は、原著論文と症例報告については 30 個以内、短報、調査報告については 15 個以内とします。総説とレポート「現場最前線」については、文献数を特に指定しません。

・本文中に文献を引用する場合は、その個所の右肩に¹⁾ や^{1,2,5-7)} のように記す。

・引用した文献をまとめて文献一覧を作成し、本文文末に記載する。文献一覧は引用順に配列し、1), 2) ...と通し番号を付す。

6. 文献一覧の書き方は統一し、外国雑誌は原則として Index Medicus に従って略号で記載して下さい。文

献の著者が3名以内の場合は全員の名前を記載し、4名以上のときは最初の3名を記載し、残りは「…ら」、または「et al.」と記してください。著者間は英文の場合も&を入れずに、カンマで区切って下さい。

【雑誌の場合】

著者名：論文タイトル、雑誌名、巻数(号数)；最初の頁-最後の頁、西暦発行年

- 例 1) 福岡達之, 川阪尚子, 野崎園子ら：嚥下障害患者に対する随意咳嗽の空気力学的測定と誤嚥の関連. 言語聴覚研究, 8(3)；131-138, 2011
- 2) Naeser MA, Martin PI, Nicholas M, et al.: Improved picture naming in chronic aphasia after TMS to part of right Broca's area: An open-protocol study. Brain Lang, 93；95-105, 2005
- 3) Max L, Yudman EM: Accuracy and variability of isochronous rhythmic timing across motor systems in stuttering versus nonstuttering individuals. J Speech Lang Hear Res, 46；146-163, 2003

【書籍の場合】

〈和書〉

著者名(訳者名)：論文タイトル、書籍名(編者名、編)、版数、出版社、出版地、引用頁、西暦発行年
訳本の場合は、著者名と訳者名の両方を記載する。訳者名は著者名の後ろに(〇〇訳)と書く。

- 例 1) 笹沼澄子, 綿森淑子, 福迫陽子ら：失語症の言語治療. 医学書院, 東京, 52-75, 1993
- 2) 能登谷晶子：機能性聴覚障害. 標準言語聴覚障害学—聴覚障害(中村公枝, 城間将江, 鈴木恵子編). 医学書院, 東京, 292-295, 2010
- 3) Basso A(武田克彦ら訳)：失語症—治療へのアプローチ. 中外医学社, 東京, 202-222, 2006

〈洋書〉

著者名：論文タイトル. In：書籍名(eds 編者名). Xth Ed., 出版社、出版地、引用頁、西暦発行年

- 例 1) Goodglass H: Understanding aphasia. Academic Press, New York, 13-39, 1993
- 2) Heim S: The language production-comprehension network in functional imaging. In: Language-normal and pathological development (eds Riva D, Rapin I, Zardini G). John Libbey Eurotext, Montrouge, 51-60, 2006